

平成 28 年 11 月の解説（週間天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬は、大陸の高気圧が日本付近に張り出すことが多かった一方、北日本では低気圧が数日の周期で通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となりました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、北日本では低気圧や寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多くなりました。特に、6 日頃は冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込んだため札幌の日最深積雪が 23cm となるなどこの時期としては大雪となりました。一方、西日本では高気圧に覆われ晴れの日が多くなりました。気温は、大陸からの寒気が流れ込みやすかったため、北日本から西日本で低くなりました。

中旬は、本州付近は低気圧と高気圧が交互に通過したため、北・東・西日本の天気は数日の周期で変わりました。北日本では低気圧の通過後は、大陸からの寒気が流れ込み、日本海側を中心に曇りや雨または雪の日があったものの、気温は平年並みとなりました。一方、西日本を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、西日本と東日本太平洋側の降水量は多く、気温は西日本でかなり高くなり、東日本でも高くなりました。沖縄・奄美では、日本の南海上の暖かい高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温はかなり高くなりました。

下旬は、シベリア高気圧が強かった一方、日本付近は低気圧や前線が短い周期で通過しました。このため、全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。特に、沖縄・奄美では低気圧や前線の活動が活発となった影響で、降水量はかなり多くなりました。また、24 日は日本付近に非常に強い寒気が流れ込み、本州の南岸を低気圧が東進したため、関東甲信地方の広い範囲で季節外れの雪となり、東京では 11 月としては 1875 年の統計開始以来初めて積雪を観測したほか、宇都宮、千葉など関東甲信地方の 7 地点で 11 月としての日最深積雪の記録を更新しました。また、北・東日本を中心に気温が低くなり、アメダスを含む 60 以上の観測地点で日最低気温が統計開始以来 11 月として最も低くなりました（気温観測地点はアメダスを含めると全国で 931 地点）。

月平均気温は、北日本ではかなり低くなりました。紋別（北海道）では、月平均気温の低い方からの 1 位の値を更新し、広尾（北海道）では 1 位タイの値を記録しました。一方で、沖縄・奄美で月平均気温は高くなりました。月降水量は、東日本日本海側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で多くなりました。月間日照時間は、北日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側で少なくなりました。むつ（青森県）では月間日照時間の少ない方からの 1 位の値を更新しました。一方で、東日本日本海側と沖縄・奄美で月間日照時間は多くなりました。

【11 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値（注）よりと同じ 73%でした。各地方の適中率では、九州南部地方で 6 ポイント低くなった他は概ね例年と同様でした。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ 2.2 となりました。各地方の予報誤差は、概ね例年と同様でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.9 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1 月の週間天気予報の利用にあたって】

1 月後半から 2 月前半にかけては、1 年の内で最も気温が低くなる時期です。冬型の気圧配置となって強い寒気が日本付近まで南下してくると、西日本の平野部でも気温が氷点下になることがあります。また、冬型の気圧配置が緩んでくると、よく晴れて放射冷却現象によって気温がさらに下がることもあり、低温による凍結などの被害が起こることがあります。

週間天気予報で気温の低い予想が続く場合は、低温に対する早めの対策を取るほか、最新の気象情報にも留意して下さい。